

# 久留米の自然



2007年4月1日 第96号 高良山の山並みとシイ林

撮影場所 高良川谷橋付近 大学稲荷下 撮影時期 2007年3月11日 撮影者 行徳 直久

## 高良山の森林植生

猪上 信義

高良山周辺にあるコジイを主体にした常緑性高木林の状況を簡単に紹介します。尾根部では高木層にコジイが優占して、これにヤマモモ、アラカシなどが加わります。斜面の中部以下でもコジイが、優占しますが、その割合は減少しウラジロガシ、イチイガシ、タブノキ、イスノキ、モチノキ、クロガネモチなどの割合が増加します。また稀に落葉高木のタマミズキやヤマザクラなどの落葉樹が混じることもあります。樹高は15~20mくらい、胸高直径は30~50cmくらいのものが多いのですが、時に1m近いのも見られます。

亜高木層や低木層には上記樹種の他、シリブカガシ、ボロボロノキ、モッコク、ヤブツバキ、ヒサカキ、ナナメノキ、ヤマビワ、アオキ、シャシャンボ、ミミズバイ、クロキ、クロバイ、シロバイ、クチナシ、ハクサンボクなどが見られます。樹高は亜高木層が6~10m、低木層では1.5~5mくらいです。

草本層は0.1~0.8mくらいですがあまり発達

せず、被度は10~30%くらいです。主なものはオオカグマ、ベニシダ、キジノオシダ、イズセンリョウ、ヤブコウジ、ツルコウジ、アリドオシ、オオアリドオシ、テイカカズラ、ハナミョウガ等のほか、上層木の芽生えも多少見られます。

久留米市域では面積的にまとまった貴重な植生ですが、特に平成3年の台風による幹折れや根倒れ、それにゴミの不法投棄などで、林内が荒廃・乾燥しています。

また周辺にはこれよりやや樹高や直径が小さい常緑広葉樹林が見られます。これらはかつて薪炭林として利用されたものの名残りか、以前各地の尾根や丘陵地に見られたアカマツ林がマツクイムシの被害で枯損し、下層の常緑樹を中心に成長した林です。構成種は上記とほとんど変わりませんが、ボロボロノキ、ヤマザクラ、タマミズキ、ハゼノキ、コシアブラ、リョウブ、エゴノキなど落葉樹の割合が多いようです。

## 高良川流域のキノコ(その2)

角 正博

3 スッポンタケ(鼈茸) *Phallus impudicus*

このキノコも種々のキノコ写真集でお馴染みで、興味深い形態をしています。私は、1978年12月2日、筑後市熊野で、段丘上の人家の裏手の雑木林の脇の畑で採集したことがあり、自然度の高い山地というよりも、むしろ人間臭いところ、人為的影響を受ける平地に出現するものというイメージがありました。高良山では、遊歩道脇のスギ林下のスギの落枝の間に埋もれるようにして、4個ほどの個体が顔を出していました。スギ林内でスッポンタケに出会うことは、全く予想していなかったので、驚きました。また、種々の図鑑類から、初夏~中秋のキノコのイメージがあり、2006年11月26日も、全くの予想外の採集でした。少ない採集例ですが、筑後地方では比較的時期が遅く、どうも最晩秋を飾るキノコと考えるべきなのでしょうか。柔らかなキノコですが、基部の根状菌糸束でしっかり地面に固定され、採集はちょっとやっかいです。

## 4 高良川流域のキクラゲ類(異型担子菌綱)

高良川流域のキクラゲ類(異型担子菌綱)としては、シロキクラゲ目シロキクラゲ科のハナビラニカワタケ *Tremella foliacea*、コガネニカワタケ *Tremella mesenterica*、キクラゲ目キクラゲ科のアラゲキクラゲ *Auricularia polytricha*、キクラゲ *Auricularia auricula*、ヒメキクラゲ科のヒメキクラゲ *Exidia glandulosa*、タマキクラゲ *Exidia uvapassa*、アカキクラゲ目アカキクラゲ科ツノマタタケ *Guepinia spathularia*が見られます。不思議なことに、高良川流域では、現在のところ、タマキクラゲは高良川支流の寺尾川水系に限られ、発生時期もヒメキクラゲ(11月下旬~翌5月中旬)ハナビラニカワタケ(同前)に比べると、遅くて2月以降に見られるようです。実際、野外ではヒメキクラゲが発生した後に、タマキクラゲが発

生したというような落枝に出会うことがあります。キクラゲも11月下旬~翌5月中旬に見られるようで、これらの種の発生時期は冬季に中心があります。コガネニカワタケも、11月~翌5月下旬までが最も新鮮な個体を観察できる時期のようですが、夏季(7月初旬)でも条件がよければ発生し、気温の影響をあまり受けず、環境への適応が広い種ようです。なお、コガネニカワタケの色はかなり個体差があり、高良川流域でも鮮やかな濃朱色から橙色、黄色っぽいものから、色が抜けて白色となったものまでさまざま見られます。これらに反して、冬季は乾燥に耐えて硬くなり、夏季に新鮮な個体が観察できるのが、南方系と言われるアラゲキクラゲです。ツノマタタケは秋季に観察できるようですが、他の種に比べて、観察できる機会はあまり多くないようです。



スッポンタケ 撮影者 橋田沙弓



アラゲキクラゲ 撮影者 橋田沙弓

**生き物に魅せられて その35****イノシシの巻 松永 紀代子**

初めてイノシシの痕跡を見たのは高良山だった。大きな動物がいるんだ、と感激した。今イノシシ出没のニュースが相次ぎ、散歩中の方々が襲われたと聞く。

私の観察地、三国丘陵にもイノシシの痕跡は沢山ある。あまりに普通のことなので特に記録もしていなかった。山懐の休耕田は足跡がすごい。彼らが巨体を土にこすりつけたのか、ぼっこりと大きな穴もあちこちにあり、水がたまっている。これに続く簡保レクセンター跡地の隣の田にも足跡がある。

ある日、跡地で観察中、声をかけられた。「今イノシシが飛び出したばい。あ～びっくりした。あんたも気をつけなよ」

福岡県の不動産の跡地も開発の波にもまれている。人と森の生きものとの緩衝地帯、里山のような役割をしている跡地である。イノシシの出没は人に行く手をはばまれた彼らの悲しい行動なのかもしれない。これ以上の開発は危険だとさえ思われる。

**ひととき 動物笑い話 その41  
スカンク**

「1月20日のニュースで、カリフォルニア州からトラックの荷台に紛れて500kmも離れたカナダのトロントで保護されたスカンクがいて、米ラジオ局関係者の協力で帰国出来る事になったが、帰りの道中に例の強力な一発を放たない保証はないと言っているよ」「そんな事したら、せつかく協力してくれた人々から、総すかん食うさ。敵ではないからスカンクもわきまえて自重すると思うよ」「そうね、TV局だったらあの納豆ダイエット報道のように面白おかしく捏造して、悪臭に悶える人々を放映するかもね」「とにかく、

何事も臭い話には注意が必要と言う事よ」

\*食肉目のイタチ科に属し、体長が約40cmで、全身に長毛があり、黒地に白帯を持つ。敵に会うと肛門腺から悪臭のある分泌物を放す。北・中央アメリカに分布。私は「いたちの最後っ屁」の被害経験はある。(Y.Y)

**例会報告****第339回例会****高良山四季の森・冬の探鳥会と自然観察会****米田 豊**

日本野鳥の会筑後支部と市農林課との共催で12月10日に実施されました。当日は連日の雨も上がって穏やかな小春日和となり、小学生5名を含めて26名の参加者でした。残念な事に、鳥の出が少ない上に望遠鏡に入れにくく、探鳥会の方は今一つで、キノコや野草の観察が主になりました。行きの竹の子コースの山腹崖面では日本特産のクチベニタケが多数見られ、奇妙なツチグリも有りました。森林つつじ公園には予定より早く着いたので、樹木は猪上氏、キノコは角氏、野草は橋田氏が解説しました。昼食には、市から提供されたイノシシ肉を使った温かい鍋やおにぎりが当会よりふるまわれました。帰りは環境保全林から後谷コースを選択し、2時過ぎに元の集合場所へ戻り、簡単な説明がなされ、私からクルミや観葉植物の苗を提供しました。なお、記録した野鳥は20種。



講師の猪上氏(右)と参加者

### 第340回例会

#### 総会と講演会 丸山 由紀子

1月13日(土)午後2時から、市役所305会議室で2007年の総会が行なわれました。19人の参加があり、役員を選出や会則改正についての話し合いなどを行ないました。その後、午後3時から「郷土の植物」という題で、福岡県森林林業技術センターの猪上信義氏による講演会が行なわれました。長年にわたって続けられてきた調査・研究に基づいた先生のお話は大変興味深く、また、専門的な内容も写真とともにかみ砕いて説明していただいたので、とても分かりやすく楽しく聞くことができました。単なる植物の紹介ではなく、私たちが生活しているこの筑後平野の成り立ちにまで話は及びました。川の流れるによって運ばれた土砂が堆積して土地をつくり、その上に植物が根を下ろし・・・という長い時間の流れを想像すると、何だか不思議な気持ちになります。最近はずつかずの原生林のような自然だけでなく、人が自然を上手に利用してきた里山の自然の重要性が見直されています。私たちのご先祖は、炭焼きをしたり、狩りをしたり、きのこや木の実を採ったりして、豊かな照葉樹林の恵みを利用して暮らしてきました。このような里山の林を、私達もまた大切にしていかなければならないと、先生のお話を聞いて改めて思いました。

### 第341回例会

#### 「昭和10年の筑後川と久留米の人々」

2月3日(土)エールピア久留米にて開催しました。毎年2月例会は久留米の歴史を知る例会となっていますが、今回は市文化財保護課が作成した表題のビデオを鑑賞しました。これは、昭和10年に撮影された16ミリフィルムから作成したもので、筑後川での舟遊び、筑後川花火大会の様子、そして水害に対応する人々の様子が生々しく映し出されています。当日13名の方が参加されましたが、その内2名の方から感想をいただきましたので掲載いたします。

(N.K)

#### 久留米市 堤 静雄

2月3日にエールピアで行われた「昭和10年の筑後川と久留米の人々」の映写会(久留米の自然を守る会主催)に参加しました。豆津橋付近の筑後川では、広い砂浜があり、人々は、船を

交通の足とするなど、非常に水に親しんだ生活をしていました。昭和10年の大水害の様子も見られました。最も印象的だったのは、田畑の冠水を防ぐ土嚢積みなどの作業を行っている男女の人々の表情が皆明るかったことです。

昭和10年というと、戦争が拡大していった頃のはずですが。私は映写後に日本住血吸虫がいなかったのだろうかかと疑問を發しました。参加しておられた、久留米大学の寄生虫の専門家が、詳しく教えてくれました。当時から日本住血吸虫は棲息し、寄生被害で子供の背が伸びなくなることがあります。寄生被害者は、体が小さく健康面の問題もあって甲種合格にならないことから、住血吸虫症が徴兵避けの神様と言われることもあるなどの興味深い話も聞きました。

この地域の川をコンクリート3面張りにしたことで、日本住血吸虫の宿主・宮入貝を撲滅させることができたこと。しかし今は、3面張りには川の生態系を壊すとして批判されています。昔は、片の瀬橋付近までボラの群が登っていたなどの興味ある話もありました。歴史を掘り起こしながら、「自然環境と人間の健康」を両立させる方法を学びたいものです。

#### 荒木町 福田 洋一

昭和10年ごろの久留米市の様子を写した珍しいビデオを見た。これは当時の市民が家族や町の様子を16ミリのフィルムに残したものを久留米市が入手して編集したもので、自家用車が写っていることから撮影者は相当のお金持ちと想像されるが、筑後川での船遊びの様子や水天宮の花火大会の様子が生き活きと甦ってくる。画面からは当時の筑後川の水量が多いこと、中州や木橋、いかだなど豊かな環境に恵まれていたことが伝わってくる。市内の様子もデパートや大きな建物などが写っており、活気が感じられる。

花火大会は大きな打ち上げ花火やナイヤガラ滝と言われる仕掛け花火もありなかなか盛んである。花火師たちが走りまわって点火している様子や船からの花火見物などが珍しい。水害の場面では水に浸かった町の様子や部落総出で堤防の補強に取り組む様子、握り飯の炊き出しなどが鮮明に写されており、記録としても価値ある。このような日常の様子を写した映像は当時の様子がよく分かって貴重な記録となるので、積極的に掘り起こして保存してもらいたいと思う。

**2007年度 久留米の自然を守る会 総会**

〔日時〕2007年1月13日(土)14:00~14:50 〔場所〕久留米市役所 3階305会議室

**2007年度 総会** 司会 河内俊英

1. 開会挨拶 副会長 米田豊 2. 議長選出 副会長 河内俊英

## 3. 議題

(1) 2006年度 活動報告 事務局 金原優子 (2) 2006年度 会計報告 会計 福田万里子

(3) 2006年度 会計監査報告 会計監査 野口勝司

(4) 役員選出案

会長 橋田沙弓 副会長 米田豊・河内俊英・国分謙一

事務局長 古賀信夫 会計 福田万里子

会報編集 橋田沙弓・丸山由紀子・古賀信夫・行徳直久

幹事 山川英毅・今村由子・丸山由紀子・福田万里子・角正博・行徳直久

会計監査 野口勝司・高山美子 名誉顧問 丹部竹志・森田公道

(5) 2007年度 活動計画 事務局 金原優子 (6) 2007年度 予算 会計 福田万里子

(7) 会則改正の件

## 4. 閉会挨拶

副会長 河内俊英

**2006年度 活動報告**

## (1) 例会・協賛イベント

NO.	例会数	月 日	例会名	会 場	担 当	人数
1	328回	1月14日(土)	2005年度総会	久留米市役所	金原・福田・国分	10
			18:00~新年会	305号「山崎」		
2	329回	2月11日(日)	講演会「吉山藤兵衛の旅日記から江戸の旅」	久留米市役所	米田・河内・橋田・今村・丸山	22
				305号		
3	330回	3月26日(日)	春の野草を楽しむ会(薬草料理)	くるめウス	福田・今村 金原・米田・河内	50
		3月25日(土)	事前採集会	高良山その他	橋田・国分・古賀・三牧	
4	331回	4月18日(火)	事前調査	かぶと山キャンプ場	橋田・黒岩・杉田	3
		4月26日(祭)	高良山樹木の名札付けとだご汁会	かぶと山キャンプ場	河内・橋田・国分・角	
5	332回	5月14日(日)	高良山バードウィーク探鳥会	高良山四季の森 森林公園	米田・丸山・橋田・山川・松富士	54
6	333回	6月10日(日)	ホタルの夕べ	高良川上流 高良内公民館	河内・今村・橋田・国分	20
7	334回	6月25日(日)	キノコと自然探訪とキノコ鍋会 講師:金子周平氏	高良台松葉諏訪池	河内・丸山・橋田・角・米田・国分・行徳	雨天中止
8	335回	7月23日(日)	水辺の自然観察会	くるめウス	米田・河内・橋田・山川	25
9	336回	9月30日(土)	筑後川観月会 お茶会・合唱・電気紙芝居	くるめウス	河内・米田・金原・今村・福田・国分・山川	56
10	337回	10月15日(日)	ネイチャーゲームと自然観察会	高良山四季の森 森林公園	米田・角・丸山・橋田・国分・行徳	24
11	338回	11月26日(日)	キノコと自然観察会	高良山四季の森 森林公園	河内・丸山・橋田・角・米田・国分	雨天中止
12	339回	12月10日(日)	冬の探鳥会と自然観察会 しなべとキノコごはん	高良山四季の森 森林公園	橋田・米田・丸山・国分	26
13	協賛	5月5日(金)	チビッコ天国・環境フェア・木のおもちゃ作り	鳥類センター 久留米百年公園	松富士・重本・橋田	200
		6月4日(日)				100
14	共催	10月7日(土)	環境シンポジウム「ごみの量をさらに減らすために今市民がやれること」	久留米大学 御井学舎	橋田・河内・福田	70
15	協賛	11月23日	高良山緑のハイキング		橋田・米田・山川・国分・重本・行徳	雨天中止
16	協賛	5月20日~21日	第2回筑後川フェスティバル in 大川	大川市文化センター他	橋田	
17	協賛	高良川子供探検隊 昆虫・魚類・植物班担当 7月16日 7月23日 8月5日 8月20日				

(3) 会報

	(発行日)	(ページ)	(表紙)	(文)	(写真)
第92号	2006年4月1日	8ページ	ウツギ	橋田沙弓	安西妙子
第93号	2006年7月1日	8ページ	サンコタケ	角正博	橋田沙弓
第94号	2006年10月1日	8ページ	アキアカネ	河内俊英	橋本哲男
第95号	2007年1月1日	8ページ	マガモとカルガモ	野口勝司	橋田沙弓

(4) 会員状況(2007.1.1現在)(2006年1.1.会員数88名)  
 会員数 82名 新入会者 0名 退会者 6名

2007年度 活動計画

	月日	表題・内容
340	1月13日(土)	総会 講演会「郷土の植物」新年会
341	2月3日(土)	ビデオ鑑賞「昭和10年の筑後川と久留米の人々」講師：山口淳氏
	3月24日(土)	筑後川野草を愉しむ会の事前準備会の野草採集会 竹きり
342	3月25日(日)	筑後川野草を愉しむ会
343	4月22日(日)	吉見岳 樹木の名札付けとだご汁会
344	5月13日(日)	高良山バードウィーク探鳥会
345	6月9日(土)	ホテルの夕べ
346	6月24日(日)	キノコ観察会とキノコ汁
347	7月22日(日)	水辺の自然観察会
348	9月22日(土)	筑後川観月会
349	10月14日(日)	ネイチャーゲームと自然観察会
350	11月11日(日)	バードウォッチング探鳥会
351	12月9日(日)	冬の自然観察会

久留米の自然を守る会2006年度決算書

収入

1、前期繰越	(現金27,971円貯金387,019円)	414,990円
2、実収入		332,178円
会費	(現金60000円振込み100,000円)	160,000円
	‘04年分(1人)	2,000円
	‘05年分(8人)	16,000円
	‘06年分(65人)	130,000円
	‘07年分(3人)	6,000円
	‘08年分(1人)	2,000円
	‘08年分(1人)	2,000円
	‘09年分(1人)	2,000円
例会行事参加費		60,970円
カンパ・雑収入(内1,000円振込)		131,940円
収入合計		767,900円

支出

1、会報作成		143,995円
92号(‘06.4.1)プリンティングコガ・編集：古賀信夫		35,995円
93号(‘06.7.1)プリンティングコガ・編集：古賀信夫		36,000円
94号(‘06.10.1)プリンティングコガ・編集：古賀信夫		36,000円
95号(‘07.1.1)プリンティングコガ・編集：古賀信夫		36,000円
2、通信費		23,780円
3、印刷・コピー		6,094円
4、文房具		2,527円
5、事務局・幹事会(H.P更新など)		24,640円
6、行事費		53,688円
7、慶弔費(香月徳男・古賀幸雄両氏)		20,000円
支出合計		274,724円

残高

1、現金		55,141円
2、貯金(利子16円を含む)		438,035円
残高合計(次期繰り越し)		493,176円

上記の通り相違ありません。2007年1月5日野口勝司 高山美子  
 久留米の自然を守る会 2007年度 予算書

収入

1、前年度繰越		493,176円
2、会費(80人×2,000円)		160,000円
3、例会参加費		50,000円
4、カンパ		96,824円
収入合計		800,000円

支出

1、会報作成費(4×@36,000円)		144,000円
2、通信費		30,000円
3、印刷・コピー代		6,000円
4、文房具費		5,000円
5、事務局・幹事会費		30,000円
6、行事費		50,000円
7、予備費		535,000円
支出合計		800,000円

予備費より300,000円を教育読本「ひとつの川から見えるもの」の出

版に充てたい。また、その出版費用については、別会計にしたい。

共催・協賛

		環境シンポジウム(未定)
協賛	5月5日(土)	チビッコ天国 木のおもちゃづくり
	6月3日(日)	環境フェア
		担当 松藤・行徳・橋田・亀井
協賛	11月23日(火)	緑のハイキング 昆虫、野鳥、植物の講師担当 猪上・行徳・米田・河内・角
協賛	7月16日(月)	高良川探検隊 昆虫、魚類、植物班
	8月4日(土)	担当講師 行徳・山川・橋田
	8月11日(土)	
	8月18日(土)	
協賛	4月14日(土)	緑化ボランティア活動支援

## 会則改正

現 行	改正後(下線部が改正箇所)
(名称) 第1条 この会を「久留米の自然を守る会」という。	(名称) 第1条 この会を「久留米の自然を守る会」(以下この会)という。
(目的) 第2条 この会は久留米市及びその周辺の自然保護運動を推進する。	(目的) 第2条 この会は久留米市及びその周辺の <u>自然環境の保全・保護を推進する。</u>
(会員) 第3条 この会の趣旨に賛同するものをもって組織する。	(会員) 第3条 この会の趣旨に賛同するものをもって組織する。 <u>なお、この会の趣旨に賛同し、これを支援する個人および団体を賛助会員とする。賛助会員には議決権はない。</u>
(会費) 第4条 会員は、下記一年度の会費を納めるものとする。 個人会費・・・一般 2000円 高校生以下 500円 賛助会員・・・個人・団体とも一口 4000円	(会費) 第4条 会員は、 <u>下記の年会費を年度当初に納めるものとする。</u> 個人会費・・・一般 2000円(但し、高校生以下は500円) 賛助会員・・・個人・団体とも一口 4000円
(事業) 第5条 この会の目的を達成するため下記の事業を行う。 1 自然保護思想の普及を図る。 2 久留米市及びその周辺の自然の研究、調査活動 3 久留米市及びその周辺の自然を保護する研究。 4 その他この会に必要な事業	(事業) 第5条 この会の目的を達成するため下記の事業を行う。 1 <u>自然環境の保全・保護の普及を図る。</u> 2 久留米市及びその周辺の自然環境の研究、調査活動 3 久留米市及びその周辺の <u>自然環境を保全・保護するための事業。</u> 4 その他この会に必要な事業
(役員) 第6条 この会に下記の役員をおく。 会長1名、副会長若干名、幹事若干名、事務局長1名、監査2名、顧問若干名 役員の任務は次の通りとする。 会長は会務を総括する。 副会長は会長を補佐する。 事務局長は事務局を代表し、会の実務にあたる。 幹事は本会の重要事項を評議し、会の運営にあたる。 監査は会の会計の監査にあたる。 顧問は会長・幹事会の諮問に応える。 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。	(役員) 第6条 この会に下記の役員をおく。 会長1名、副会長若干名、幹事若干名、事務局長1名、 <u>会計1名</u> 監査2名、顧問若干名 役員の任務は次の通りとする。 会長は会務を総括する。 副会長は会長を補佐する。 事務局長は事務局を代表し、会の実務にあたる。 <u>会計は会の経理を担当する。</u> 幹事は本会の重要事項を評議し、会の運営にあたる。 監査は会の会計の監査にあたる。 顧問は会長・幹事会の諮問に応える。 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。
(事務局) 第7条 本会に事務局をおく。	(事務局) 第7条 <u>この会の事務局を事務局長宅におく。</u>
(総会) 第8条 総会は年1階開催する。 総会には下記の事項を付議する。 事業の経過と計画 予算・決算 役員の決定 会則の改廃 その他重要事項	(総会) 第8条 <u>総会は本会の最高議決機関とし、毎年3ヶ月以内に開催する。</u> 総会には下記の事項を付議する。 事業の経過と計画 予算・決算 役員の決定 会則の改廃 その他重要事項 <u>なお、幹事会が必要と認めたときは臨時総会を開くことができる。</u> <u>総会の議決は、出席会員の過半数をもって可決する。</u>
(専門部会) 第9条 この会に、必要に応じて専門部会を設け、必要な資料の収集および調査・研究を行う。	同左
(会計) 第10条 この会の会計は、会員の会費および寄付による。 会計年度は、1月1日に始まり12月31日に終わる。	同左
	付則 <u>この会則は、昭和55年3月2日より発行する。</u> <u>この会則は、昭和60年3月3日に一部改正する。</u> <u>この会則は、昭和61年1月26日に一部改正する。</u> <u>この会則は、平成6年1月22日に一部改正する。</u> <u>この会則は、平成19年1月13日に一部改正する。</u>

## 《行事案内》

### 第343回例会:

#### 吉見岳・樹木の名札付けとだご汁会

みなさんで樹木の名札を付けてみませんか。だご汁も味わえます。

〔日時〕: 4月22日(日) 小雨決行

〔集合・解散〕: 9:30 御井小学校

14:30 現地解散

〔場所〕: 吉見岳経由高良大社境内

〔参加費〕: 200円 先着20名様

〔持ち物〕: マイカップ はし

### 第344回例会:

#### 高良山バードウィーク探鳥会

高良山四季の森として新しく整備された後谷コースや環境保全林の新緑の中で、オオルリやキビタキなどの美しいさえずりを楽しみませんか。

〔日時〕: 5月13日(日) 雨天中止

〔集合・解散〕: 9:00・14:30 高良内幼稚園

〔交通〕: 西鉄バス高良内・竹の子行きで、終点竹の子バス停下車、徒歩1分

〔持ち物〕: 弁当、水筒、筆記用具、あれば双眼鏡

〔参加費〕: 100円

〔共催〕: 日本野鳥の会筑後支部、久留米市農政部門  
農林課、県朝倉農林事務所

### 第345回例会:ホタルの夕べ

〔日時〕: 6月9日(日) 雨天中止

〔場所〕: 高良内校区公民館 19時~20時

〔現地〕: 高良川上流・寺尾谷入口

〔参加費〕: 1000円

### 第346回例会:きのこと自然探訪きのこ汁会

きのこと自然探訪、きのこ汁会を行います。指導は金子周平先生(県森林林業技術センター)

〔日時〕: 6月24日(日) 小雨決行

〔集合・解散〕: 上津小学校運動場横 9時

14時半現地解散

〔持物〕: 筆記用具、長袖、長ズボン、長靴

〔参加費〕: 300円 先着20名様

## 《事務局だより》

本号の記事の中にイノシシが突然人里に現れてびっくりしたという記事が載っているが、先日図書館で見つけた本の中にイノシシや鹿が大量に発生して人里まで降りてくるのはニホンオオカミの絶滅に原因があるとのことで、日本オオカミ協会ではオオカミを復活させて生態系を元にもどそうという運動を行っているとの記事があった。しかし、オオカミが絶滅してから100年が経過する。この状態で再び生態系に変化を加えると、元の状態に戻るのではなく第三の方向に進むのではないか。自然から見た100年という時間の経過と人間からみた100年とではその長さの感覚が違うのであろうか。

「久留米の自然を守る会」ホームページ  
<http://kurumenoshizen.net>

(古賀信夫)

### 1. 会員消息 入会 山内 芳(粕屋郡) 香月すみ系(久留米市)

### 2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

### 3. 原稿募集

次号97号は平成19年7月1日発行予定です。原稿の〆切は6月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

### 4. 幹事会のご案内

幹事会(定例)は原則として毎月第1水曜日の19:00~21:00まで、西町教育集会所で行います。皆さんも気軽にご参加下さい。(5月2日、6月6日、7月4日)

## 久留米の自然

平成19年4月1日 第96号

発行 久留米の自然を守る会

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田 2320-6

TEL 46-8622 FAX 46-8623 (古賀)

印刷(有)プリンティング コガ

TEL 0944-88-0027 FAX 0944-88-0029